

【テーマ1: 若手教員を育てる岡山市型教員研修評価モデルの開発ー研修転移による学校改善を目指してー】

【国立大学法人岡山大学】

・岡山大学と岡山市教育研究研修センターが連携して、センターの3年目研修講座を受講した若手教員(130名程度)を対象に、研修効果の可視化を目指して調査研究を行った。

モデル開発概要

現場における課題

- ・増加する若手教員をいかに育てていくかが重要なポイント(研修を重視し、研修の成果確認・評価モデル開発の必要性)
- ・従来の「受講者の満足度が高ければ、その研修は成功した」と捉える評価では研修高度化につながらないという課題
- ・研修で学んだことを現場で実践し、成果につなげていくことを重視した「研修転移」の考え方の必要性
- ・若手教員の教員研修においては、彼・彼女らの授業観や学習観、さらには教員自身の学びの転換を促す「アンラーニング」や深い振り返りである「批判的省察」も重要

本事業の研究枠組みや手法において参考にした中原淳他『研修開発入門「研修評価」の教科書』ダイヤモンド社、2022年

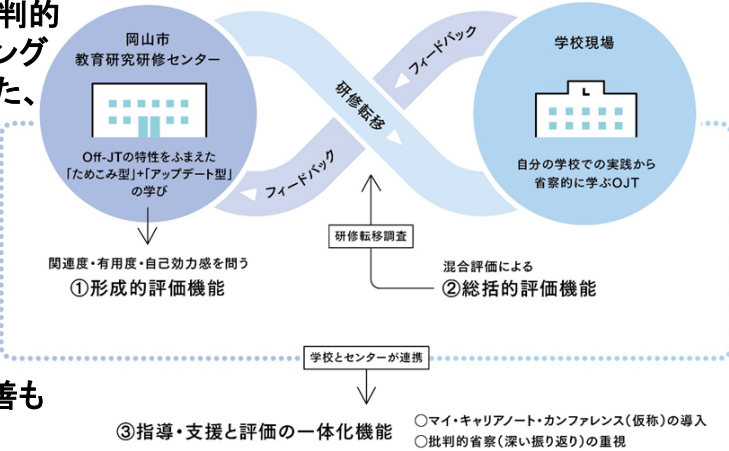
モデルの対比表

・研修効果の可視化による分析を通して、従来型との対比のもと、右表のような「岡山市型教員研修評価」のあり方を導出した。

	従来型の教員研修評価	岡山市型の教員研修評価
研修の設計・運営	この研修に参加して良かったかどうか	関連度・有用度・自己効力感を高めるかどうか
評価の対象	研修直後の満足度	研修で学んだことが、研修の事後、学校現場で実践(研修転移)されたかどうか
評価の役割	受講者の反応(満足度)や学習(獲得度合い)の測定を中心にした 「①形成的評価機能」+「②総括的評価機能」	「①形成的評価機能(関連度・有用度・自己効力感)」+「②総括的評価機能(混合評価)」+「③指導・支援と評価の一体化機能」
評価材料	定量データを重視	定量データ+定性データ
評価時期	研修直後の測定	研修直後の測定と研修転移の測定
研修評価の手法	一部分的な、データ・時期で評価	データ・時期を混合させる「混合評価」
研修での学び	「ため込み型」	「ため込み型」+「アップデート型」

高度化に資する取組とモデルの開発

- ・研修効果の可視化1として、定量的な「研修直後調査」と「研修転移調査」を行った(満足度ではなく、関連度・有用度・自己効力感を問うことの有効性と省察・批判的省察が研修転移を促す可能性が示唆された)。
- ・研修効果の可視化2として、研修を活用して良い結果が出た岡山市内の小中学校教員に対して定性的なヒアリング調査を行った(彼・彼女らにとって振り返りの機会になったとともに、撮影した動画を編集・活用)。
- ・可視化による分析結果をふまえ、岡山市型の教員研修評価モデル混合評価や研修評価の3機能、さらには批判的省察とアンラーニングの視点も取り入れた、研修転移を促す「岡山市型教員研修評価モデル」を右図のように開発した。
- ・モデルに基づいた岡山市の教員研修(評価)の改善も行われている。



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ・モデルの推進、さらには「令和の日本型学校教育」を担う教師の学びには、「批判的省察」がキーポイント
- ・モデルの推進にあたって、若手教員への支援は「エンパワーメント」であって、「教化」でないことには留意(子どもの学びの「相似形」ではない、大人の学びの特性をふまえることの重要性)
- ・モデルによる「③指導・支援と評価の一体化機能(仮称:マイ・キャリアノート・カンファレンス)」を通して、若手教員と管理職等が対話を通して互いに省察(省察の連鎖)し、学び合うことでこそ、学校現場に大きなインパクトをもたらし、学校改善につながっていくことが示唆された。
- ・開発されたモデルは、若手教員だけでなく、他のキャリアステージの研修にも援用可能であり、他自治体の教育委員会(教育研修センター等)にとっても参考になるだろう。